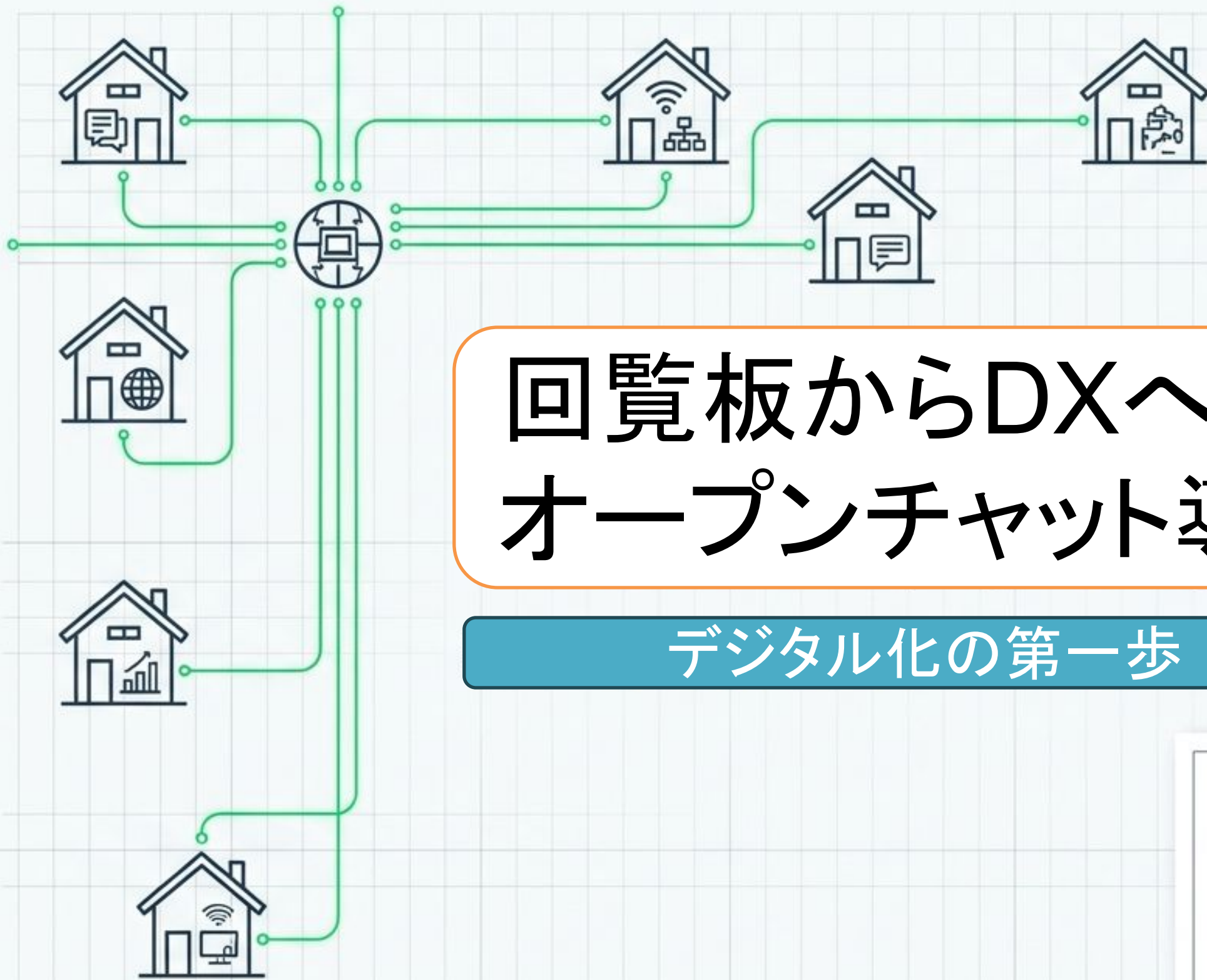




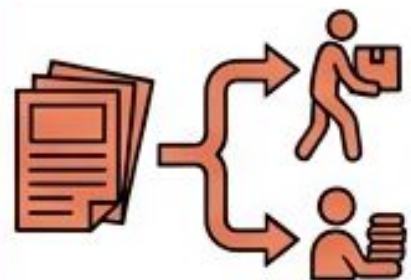
回覧板からDXへ:町田市自治会 オープンチャット導入プレイブック

デジタル化の第一歩

町田市町内会・自治会連合会 副会長/
成瀬殖産地区自治会 会長

事例発表 木下 賢治

従来の連絡網が抱える「構造的限界」とDXがもたらす解決策

	アナログの限界	DXのビジョン
情報伝達のスピード	 回覧板（全戸配布） - 戻ってくるまでに最大「2週間」のタイムラグ。	 オープンチャット - 災害時（台風時の資源回収中止など）も「瞬時」に全世帯へ伝達。
情報の正確性	 電話連絡網 - 伝言ゲームのように内容が歪むリスク。	 オープンチャット - 発信者の原文がそのまま全員へ。 質の高い情報共有。
役員の負担	 チラシがまとまるまで待つ、物理的な配布・集計作業。	 こまめな発信が可能。既読数で到達確認。ペーパーレスによる印刷・配布コスト削減。

全会員アンケートに基づく「維持費ゼロ」への徹底

全会員アンケートの実施

有料専用アプリ（「いちのいち」「結ねっと」等）

メリット：専用機能の豊富さ

デメリット・費用：継続的なランニングコスト発生

3年前の全会員アンケートの結果、
「費用のかかるツール」は
望まれていない民意が明確に。

LINE系ツール（オープンチャット）

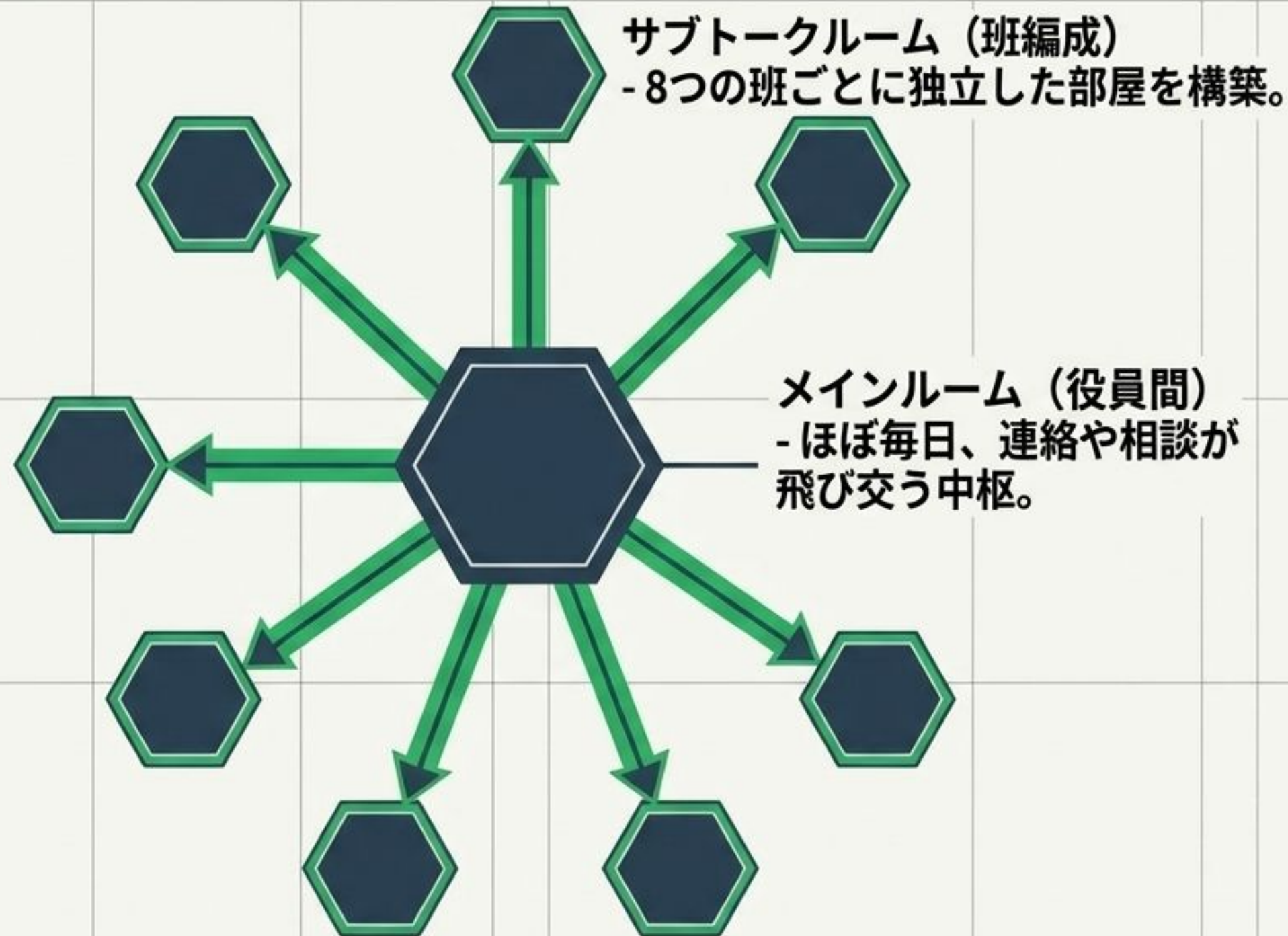
メリット：導入ハードルの低さ

デメリット・費用：完全無料（コストゼロ）

住民合意形成を最優先し、「無料でどこまでやれるか」に特化した戦略ヘシフト。

※現在は非会員向けにLINE公式アカウント（無料枠）も併用中。

スケーラブルで安全な「1+8」のルーム設計と二重管理体制



二重の管理体制:



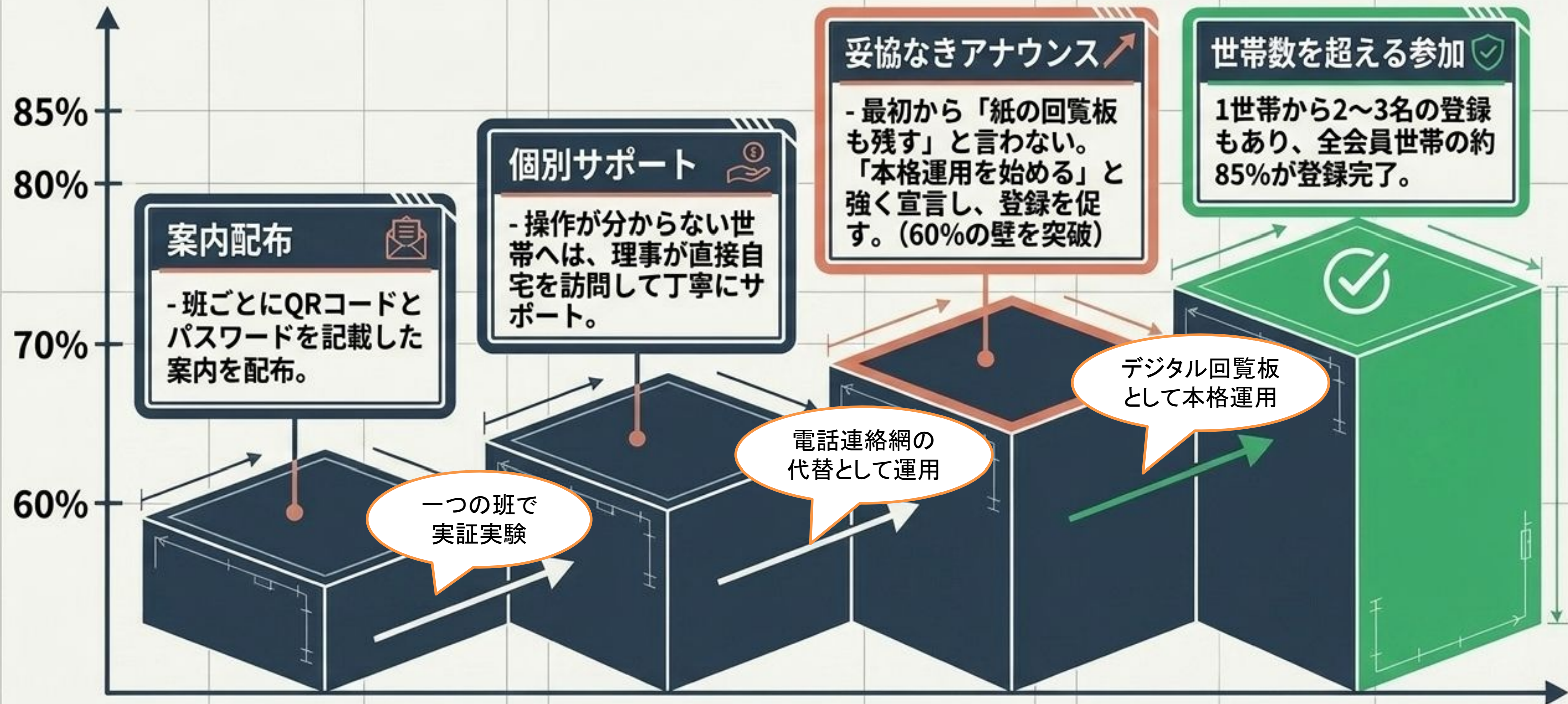
すべてのルームに「会長」が管理者として参加。さらに各班の「理事（班長）」が共同管理者の権限を持ち、現場対応を実施。

匿名性の排除:



個人特定を防ぐ機能を逆手に取り、参加時の表示名を「区画名＋苗字」に限定
地域コミュニティの秩序を維持。

あえて妥協しない戦略で、85%の驚異的な登録率を達成



運用ハードルを下げる「3つのゴールデンルール」



双方向ツールと使わない

完全一方通行

発信は原則、理事（班長）や会長のみ。LINE公式のように運用し、情報が埋もれるのを防ぐ。



緊急時はスレッドを使用し
双方向ツールに

個別返信の禁止

個別の発信があっても
ルーム内での返信は行
わない。発信要望は理
事へ直接伝える。



毎月1日の 自動リマインド

毎月1日に自動で利用規
約を送信。ルールの再
確認と徹底をシステム
で自動化。

「なるべくシンプルで、ハードルの低い最小限のルール」が、
高齢者を含む幅広い世代（20代～90代）の参加を可能にした。

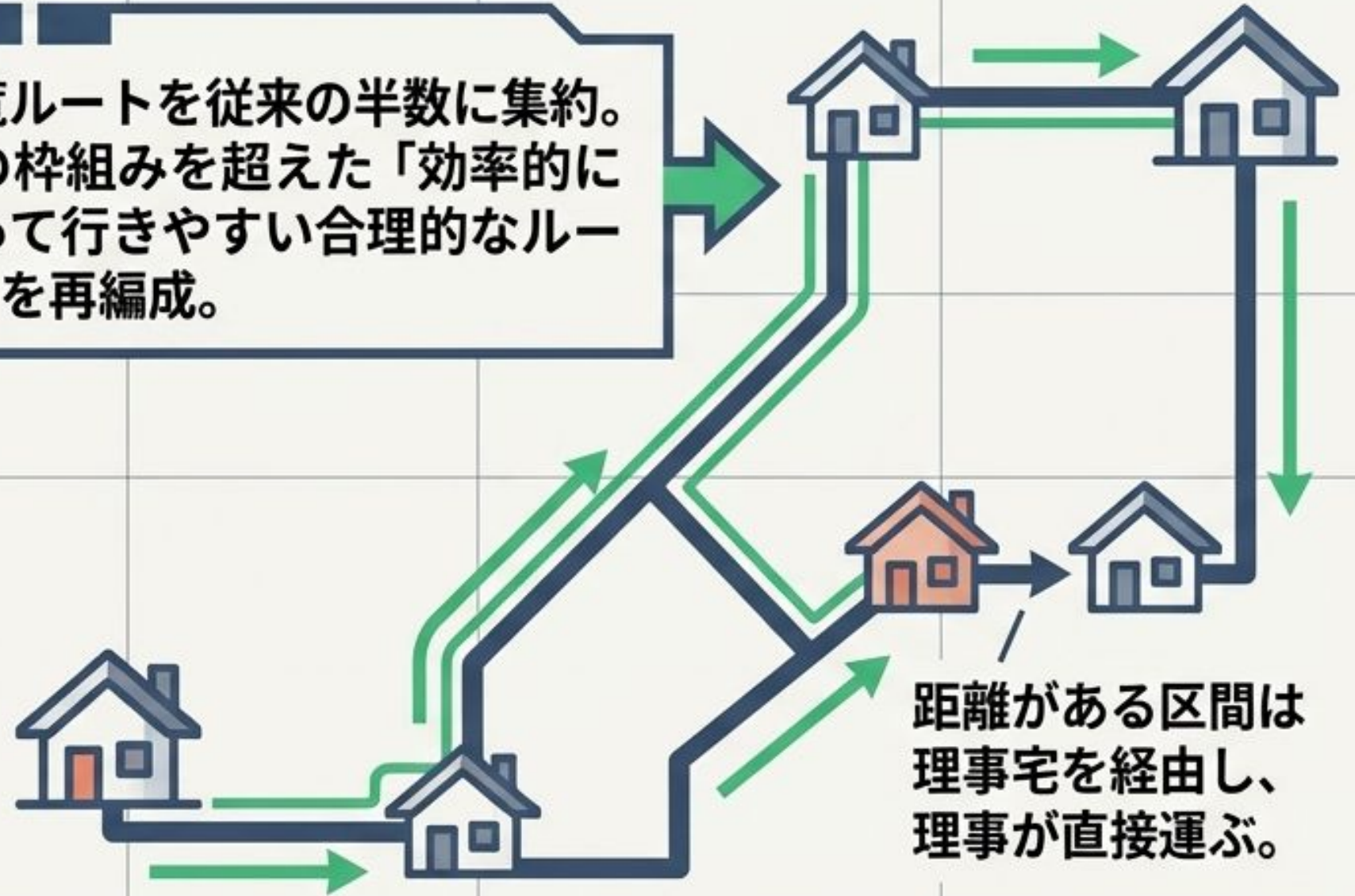
誰一人取り残さないための「最適化されたアナログ回覧ルート」

残り15%の未登録者

どうしても登録が難しい未登録者（全体で約20名に減少）。無理強いはいしない。



回覧ルートを従来の半数に集約。班の枠組みを超えた「効率的に持って行きやすい合理的なルート」を再編成。



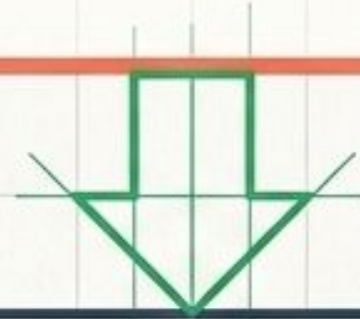
※この最終的なアナログ補完プランは、登録率を最大化するため、早い段階では会員に明かさないことが重要。結果として「不参加者専用の回覧」も超高速で回るシステムが完成。

導入初期の落とし穴：LINEスパム判定の回避策

失敗例

Action: デジタル回覧板の文章を最初の班ルームに送り、それを残りの全7班へ次々と「転送」する。

Result: LINE側のセキュリティシステムにより「スパム」と誤判定され、
1日利用制限を受けるトラブルが頻発。

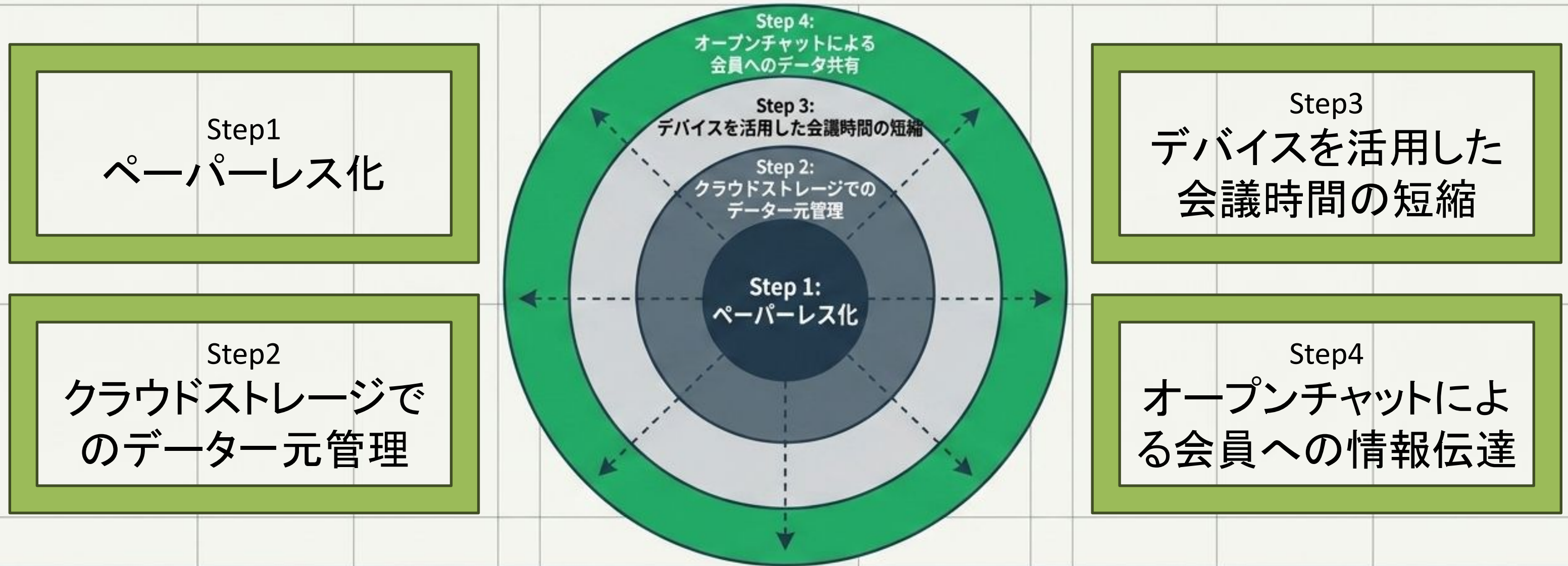


現在はこのウィークポイントをLINE側の助言により解決済み。

オープンチャットでデジタル回覧板を導入する全自治会が必ず知っておくべき、システム上の必須対策事項。

転送をする場合には一度に4ルーム以下にする。
一度転送したら2分以上の間隔をあける。

会員へのデジタル展開は「入口」ではなく「出口」である



デジタル化そのものではなく、自治会運営そのものを変革する「DX」へ。
役員間の共通理解と実証実験（1つの班で半年間）から始めることが成功の鍵。

究極の内部DX：紙ゼロで進行する「リアルタイム更新型」理事会

1

事前共有：
資料は事前にクラウドで共有。
会議前に各自が意見を構築。

2

リアルタイム編集：
年間プロジェクトの進捗
や議案をPowerPointで
まとめ、会議中にプロジ
ェクターで投影しながら
その場で修正・追加。

3

70代の挑戦：初めてパワポを
触る70代の役員が引き継ぎを
担当。勉強しながら意欲的に
資料作成と投影を主導。

ここ2年間、理事会での紙の資料配布は
一切ゼロ。会議の効率が飛躍的に向上。

属人化からの脱却：「自治会専用クラウド」によるシームレスな引き継ぎ

⚠ 個人アカウントへの依存



副会長

副会長個人のアカウントに紐づいたクラウドストレージを作成。役員交代時にアクセス権限の移行が複雑化し、大失敗を経験。

失敗例

✔ 独立したシステムアカウント



- ✔ 「自治会専用の、誰の個人情報にも紐づかない独立したストレージアカウント」を構築。
- ✔ 引き継ぎプロセス: 新役員のメールアドレスを聞いて、ストレージの共有設定をするだけ。「中学生でも運営できる」簡略化されたシステム。

2年間の運用実績：持続可能なコミュニティの実現

退会者
0

デジタル化による分断を
起こさず、全員参加型の
コミュニティを維持。

会員数
約5%増加

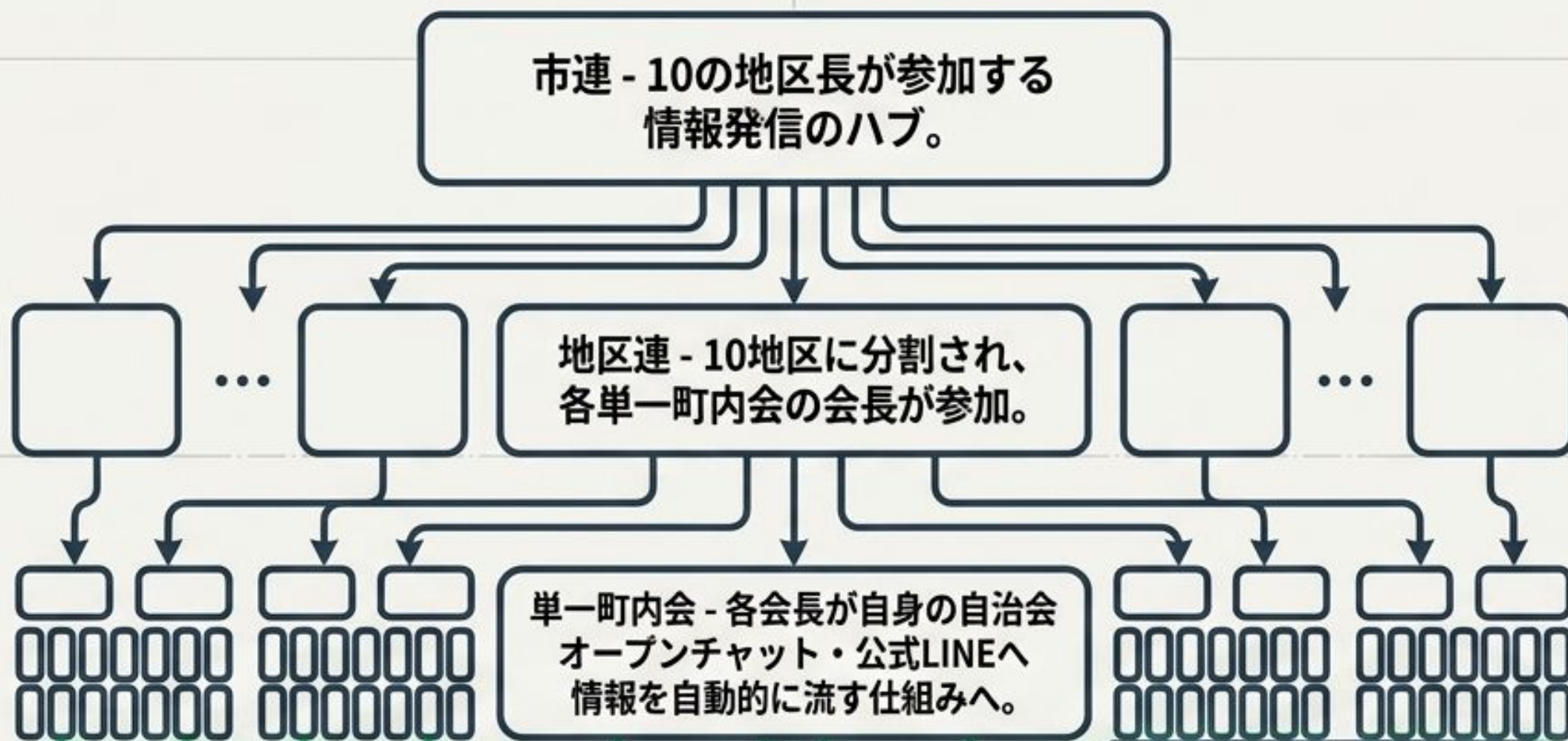
利便性と「一歩進んでいて
カッコいい」という口コミ効
果が新規加入を後押し。

追加コスト
¥0

オープンチャットと
LINE公式（非会員向け）の
無料枠をフル活用。

イベントをほぼ開催しなくても、デジタルネットワークの中で住民同士が
「確かな繋がり」を感じる新たな自治会の形が完成。若い世代から支持される運営へ。

次のフェーズへ：市全体のネットワーク化とAX（AI変革）への挑戦



DXの先にあるAX (AI Transformation)

- ノート機能とGoogleドライブを連携し、市から末端まで情報を一気に流すテストを高ヶ坂・成瀬地区で開始。
- オープンチャットへ流す文面の整理・要約にAIを活用。「わかりやすく伝える」プロセスを自動化し、役員の負担をさらにゼロへ近づける。